

愛ランド通信

～人と動物の共生を目指して～ 平成30年度秋号

ペットの飼い方 注意情報

飼う前に、ちょっと待った！～鳥類編～

鳥類は種類も多く、賢くて仕草も可愛らしく初めてのペットとして飼われる方も多ですが、部屋が汚れる・長期旅行ができない・鳴き声が大きいため、飼育するうえで大変な面もあります。

小型・中型インコ（セキセイインコ・オカメインコなど）・文鳥の平均寿命は7～20年で、大型のオウムは飼育下では50年以上生きることもあるので、**終生飼育**できるか考えてから、飼うようにしましょう。

教えて！費用のこと

生体の価格はインコのヒナは比較的安価ですが、オカメインコや大型オウムになると高額になってきます。鳥かご・かごカバー・ヒーター・止まり木・水入れ・専用のフードなどの準備にも費用がかかります。

毎月かかる費用は温度管理にかかる電気代とフードやおもちゃ代ですが、**最も高額となる可能性があるのが医療費です。**初診料・検査代・薬代が必要になり、手術になるとさらに高額になるので、医療費貯金やペット保険などで備えることも大切です。



▲セキセイインコの愛ちゃん

注意することは？

インコにとっての適温の目安は25～30℃で、ヒナ・病鳥・老鳥はもう少し高めです。

部屋で放すときは窓やカーテンを閉め家族にも伝えておくようにし、人間の食べ物（チョコレート・ネギなど下痢や中毒を起こす物）・薬・観葉植物・タバコ・熱い物・金属類など、危険なものは片付けておく。踏みつけてしまう悲しい事故もあるので、目を離さないように注意し、30分～1時間を目安に見守ってあげましょう。

日光浴のときも猫やカラス、ヘビに襲われないように注意が必要です。

病気の予防と発見！

小鳥の場合、気がついたときには病状が進行していることが珍しくありません。

食欲の変化、毎日の糞のチェック、ずっと羽毛を膨らませていないかなど、普段と違う時は病気の可能性があるため動物病院に相談しましょう。**鳥類を診察・治療できる病院は、犬や猫に比べてはるかに少ないので事前に調べておきましょう。**

正しい飼育法と清潔な住まい、ストレスのない環境づくりが大切です。(5期 山本)



▲オカメインコのココちゃん

インタビュー

センターから譲渡されたニャンコ。その後、どうしていますか？

家族に迎えて

長年共に過ごしてきた猫と犬を老衰で亡くし、しばらくは動物を飼う気持ちになれずにいた伊藤さん。けれど、動物が好きな気持ちからまたペットのいる生活もいかなあと思うようになったのが昨年の7月頃。

以前飼われていた猫と犬も行き場のない子を引き取られた伊藤さんは「わずかな力だけれど、1匹でも2匹でも困っている子を助けられたら...。」という思いからセンターのホームページを見られたそうです。

ホームページを見てすぐ「かわいい！」と目に留まったのが『はなちゃん』。すぐにセンターに足を運び、たくさんいた保護猫の中から当時5歳だったはなちゃんを譲り受けられました。子猫に比べ成猫の譲渡は引取り手が少なく譲り受けたいと聞いていた子猫もあり、はなちゃんを家族に迎え入れようと心に決められていたそうです。

センターにいた当時7.3kgあった体重も伊藤さんの体重管理のお



▲ソファでお昼寝。気持ちいい～！

コロコロンがかわいいんです。

「わずかな力でも、困っている子を助けられたら...」と語られた伊藤久美子さん。昨年7月から少しぽっちゃりな『はなちゃん(現在6歳)』との生活が始まりました。



▲伊藤さんにくっついてるのが大好き！

かげで今は6.4kgまで減りました。体重オーバーのはなちゃんを最初は心配されたようですが「とても元気でコロコロンがかわいいんです！」と話す伊藤さん。大人しくコロンとした姿ですが、実はとても俊敏なはなちゃん。はなちゃんのことを愛情いっぱいに見守ってくれる、素敵な家族に出会えてよかったね！(ym)



特集 ねこの避妊・去勢

今年の春に生まれた子猫を飼っている方にとっては、そろそろ飼い猫の避妊・去勢手術を考える時期です。手術をすることによって、生殖器系疾患や乳腺腫瘍などの病気を予防できるだけでなく、望まない妊娠・出産を防ぐこともできます。猫は非常に繁殖力の強い動物です。室内で飼育していても脱走時や災害時など予期せぬ出来事に備えるという意味でも避妊・去勢手術は必要です。今回は猫の繁殖力に注目して避妊・去勢の大切さをお伝えします。

繁殖期は1年中!?

メス猫は生後6～12カ月で最初の発情をおこします。野良猫の繁殖のピークは春夏ですが、年中快適な室内環境で暮らす猫は、季節を問わず発情することがあります。また、オス猫は生後9～12カ月で繁殖可能となり、発情しているメス猫の鳴き声やフェロモンによって発情します。

妊娠率はほぼ100%!

猫は犬とは違い交尾の刺激によって排卵する交尾排卵動物で、複数回交尾を行うとほぼ100%の確率で妊娠してしまいます。避妊手術をしていない飼い猫が1日家出ただけなのに妊娠した、という話をよく聞きますがこれがその理由です。

猫は多産!

猫の妊娠期間は約2カ月、1回の出産で3～5匹の子供が生まれます。出産後は1～3カ月で次の発情が来るため、時期や条件が合えば1年に3回出産することも可能です。

手術について本紙の中面で詳しく解説!

編集後記 自由気ままでしなやかで、かわいくって気高い猫が好きです。そんな猫の命を守れるのは人間だけ。今ある命を大切に、すべての猫が一生幸せに暮らせるように。今回の特集で猫の繁殖力の強さ、避妊・去勢の大切さを多くのの人に知ってもらえたら嬉しいです。(atk)

本紙は“京都市人と動物が共生できるまちづくり基金”からも出資いただいています。まちづくり基金に寄附していただいた方のお名前はホームページにて公開しています。なお、寄附の方法についても、こちらのホームページでご覧いただけます。

センターへのアクセス

- 近鉄十条駅から徒歩5分
- 京都市営地下鉄烏丸線 十条駅から徒歩15分
- 京都市営バス 十条大宮停留所から徒歩5分

※無料駐車場はございません

〒601-8103
京都市南区上鳥羽仏現寺町11番地
電話：075-671-0336
FAX：075-671-0338
開所時間：午前9時～午後5時
休所日：木曜日（祝日の場合は翌平日）
年末年始

京都動物愛護センター マスコットキャラクターのLINEスタンプはこちらから ↓ ↓

発行：京都動物愛護センター 平成30年9月14日

特集 ねこの避妊・去勢

ねこ算

仮に1年に2回出産し、4匹の猫が生まれ、その半分がメス猫として計算すると、1対のカップルが2年でなんと162匹に！



子猫が生まれたら新しい飼い主を探せばいい、と軽く考えることもできなくなりますね。

このように繁殖力の強い猫ですが、逆に発情期に繁殖できないと、非常に強いストレスになってしまいます。そのようなストレスを軽減できるということも避妊・去勢手術をしたほうがよい理由のひとつです。

避妊・去勢手術 Q&A

Q.手術するのに最適な月齢は？

A. 生後6カ月前後、初めての発情を迎える前が一般的です。

Q.大人の猫でも手術できる？

A. 健康な猫であれば手術はできます。かかりつけの動物病院にご相談ください。

Q.手術の費用はどのくらい？

A. 猫の性別や健康状態、動物病院によっても異なりますので、手術前にご確認ください。なお、京都市内で飼養されている猫であれば、公益社団法人京都市獣医師会会員の動物病院で実施する避妊・去勢手術について、手術費用の補助を受けることができます。ただし補助できる手術件数には限りがありますので、手術を予約される前に各動物病院に確認ください。

また、城陽市においては飼い主のいない猫、八幡市においては飼い猫・保護猫を対象に避妊・去勢手術の助成金の制度があります。こちらも手術件数に上限がありますので、各市役所にお問い合わせください。

Q.手術って具体的に何をやるの？

A. オス猫の場合は精巣摘出、メス猫の場合は卵巣・子宮摘出や卵巣摘出など、手術にはいくつか方法があります。

Q.入院は必要？

A. 日帰りや入院の対応は動物病院によって、また猫の健康状態によって異なりますので、手術前に確認してください。

Q.手術の前後で気をつけることは？

A. 一般的に手術前日の夜から絶食、当日は絶食となります。これは手術中に吐き戻すなどの事故を防ぐために非常に重要ですので、必ず守りましょう。

また、手術後は傷口を舐めさせないようにすることが大切です。通常はエリザベス・カラーや腹帯（メスのみ）を装着した状態で退院しますが、外れた時のために装着方法を聞いておくとういことです。その他具体的な注意事項や術後のケアは動物病院によって異なりますので、説明をよく聞いて指示を守るようにしましょう。

救えない命を減らすために

センターに保護される猫のほとんどは野良猫が産んだ子猫です。野良猫の繁殖が集中する時期にはセンターの収容可能数を上回ることもあり、全ての子猫を生かすことができないのが現状です。また、母猫の母乳を飲んでいないため免疫力が弱い子猫などは保護してもすぐ死んでしまうこともあります。このような救えない命を減らすための有効な方法として、京都市が行っている『まちなこ活動支援事業』があります。

『まちなこ活動』とは、地域に暮らす野良猫を地域住民の理解と協力を得て、餌やふん尿の管理、周辺美化などの一定のルールに基づき、地域のみなさんが適切に管理するとともに、避妊・去勢手術を行うことにより、野良猫に一代限りの命を全うさせる活動です。京都市はこの活動を支援するために、平成22年度から公益社団法人京都市獣医師会の協力の下、無料でセンターで避妊・去勢手術をしています。平成30年3月末現在、この『まちなこ活動』には延べ203の地域が登録され、これまでに1,269匹の野良猫が避妊・去勢手術を受けました。この活動によって野良猫の繁殖を抑制できれば、センターに過剰な子猫が持ち込まれることもなくなり、救えない命をなくすことにつながるでしょう。(atk)

京都市のまちなこ活動支援事業については下記ページをご覧ください。



<http://www.city.kyoto.lg.jp/hoken-fukushi/page/0000189400.html>



京都動物愛護フェスティバル☆開催

センターでこんなことやってます！ 平成30年9月22日(土)午前11時～午後4時 岡崎公園

毎年9月20日から26日までの一週間は動物愛護週間です。ペットを飼っている方もそうでない方も身近な動物に関心を持ち、動物を愛する心を育むとともに、動物との正しい関わり方についてより一層理解を深めていただくため、今年も京都動物愛護フェスティバルが開催されます。



▲今年の缶バッジのデザインは？お楽しみに！

昨年はボランティアブースにおいて、クイズに答えてもらい正解者には特製缶バッジをプレゼント。ブースは200名を超える参加者で大盛況～ プラ板で作る迷子札も100名近くの方に参加いただきました。子ども大人も目をキラキラさせて作っていただきとても嬉しかったです。

今年も会場内ではペットに関するブースが多数出展されます。第6期ボランティ

アもまだまだ募集中～ちょっとでも興味のある方はぜひ遊びに来てください。

スタッフがご質問にどんどんお答えしますよ。会場でスタッフ一同わくわくしながらみなさまのお越しをお待ちしています！

ペット同伴OKなので、みなさまの可愛いペットもぜひ一緒にお越しくださいね。ただし、ペット同伴の際はリードを外さない、ウンチやおしっこの処理、ワンちゃんは鑑札の装着と狂犬病予防注射接種についてお願いします。来場者の中には犬が苦手な方もいます。マナーを守ってイベントを楽しんでください。人もペットも暑さ対策・水分補給を忘れずに！(yoshi)



▲遊びに来てね！待ってまーす！



▲大人も夢中になるプラ板作り



ケンが教えてくれたこと

ボランティア5期生 奥村暁子



▲2代目 ケン♂

我が家は代々保護犬を飼ってきました。初代は、超絶ビビリのジョン。2代目は、親友との縁でやってきたケン。現在飼っている3代目は、動物愛護団体より迎え入れたレンです。それぞれにたくさん思い出がありますが、少しでも皆さんのお役に立てるのではと思う経験をしたのは、2代目のケンです。

ケンは2008年7月、6歳のときゲリラ豪雨の雷に驚き、脱走し、迷子になりました。すぐに自宅周辺を探しましたが見つからず、必死の捜索が始まりました。近隣の役所等関係機関への連絡はもちろん、新聞折込に有線放送、動物病院やコンビニなどへのビラ掲示の依頼、考え得る限りのことをしましたがケンは見つからず、生きた心地がしない日々を過ごしました。



▲3代目 レン♂ 首輪に名前、住所、電話番号の刺繍が入っています。



▲初代 ジョン♀

それからちょうど2カ月がたった日の夜中、ケンはガリガリになって自力で家に帰ってきました。目つきも鋭く変わっており、壮絶な2カ月を過ごしたことが想像されました。私達家族はケンにそんな思いをさせたことを心から悔やみ、2カ月たっても家に帰りたと思ってくれたケンに感謝しました。迷子は日常生活中だけでなく、災害時などいつ誰の身に起こってもおかしくないことです。だからこそ起こってしまっただけのために、最低限、鑑札や迷子札は必ず常に身につけていただきたいです。言葉を話せない動物を守るのには飼い主しかありません。私自身もケンでの苦い教訓を生かし、レンのことをしっかりと守っていきたいと思います。